

黒石市中心市街地活性化基本計画（素案）に対する意見募集結果について

市が実施しました黒石市中心市街地活性化基本計画策定にあたっての意見募集に対し、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

いただいた意見の概要とそれに対する市の考え方は下記のとおりです。

記

1 意見募集期間

平成30年11月19日から平成30年12月7日まで

2 募集方法

市のホームページ及び広報くろいしに募集に関する情報を掲載し、素案を市のホームページと商工課において公表、閲覧を実施しました。

意見提出は、所定の記入用紙または任意様式に、氏名（法人等の場合は名称及び代表者氏名）、住所、在住・在学の別、件名（任意様式のみ）、の明記を条件とし、提出方法は、郵送、商工課への直接持参、FAX及びEメールのいずれかの方法によることとしました。

3 提出された意見

3人の方から延べ9件の意見をいただきました。

（提出された意見の内容とそれに対する市の考え方）

No.	意見の概要	市の考え方
1	PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民が連携して公共サービスを提供する手法）などの整備手法を活用してはどうか。	基本計画（案）に記載している施設整備事業のうち、市が事業主体となる施設の整備手法については、今後、個々の施設整備計画の中で検討していきます。
2	街なみについて、「こみせ」をモチーフにある程度統一したデザインとしてはどうか。	基本計画（案）においても、「こみせ」は重要な資産と考えており、将来像として、前町、中町、横町、浜町、上町、元町がこみせでつながることで、歩いて回遊できる生活空間を創出することを目指しています。 今後、街なみ環境整備事業等において、形態等を具体的に検討していくこととなります。
3	黒石独自の文化や地元食材を活用した出店を進めてはどうか。	市民アンケート調査においても、中心市街地内に魅力ある店舗を求める声が多く、市民及び観光客を迎え入れる店舗形成も重要と考えております。今後、商店会と連携を図るとともに、新たな創業・起業者が出店しやすい環境づくりに取り組んでいきます。
4	宿泊施設に関しては、民泊を活用してはどうか。	民泊は、現在、市内で数件運営されており、今後も増加することが見込まれます。今回、基本計画（案）に記載している宿泊施設は、民間事業者が新たに建設を予定しているもので、民泊とともに多様なニーズに対応できることは重要な点と考えています。

No.	意見の概要	市の考え方
5	市立図書館を旧大黒デパート跡地に建設するべきである。	<p>基本計画（案）では、旧大黒デパート跡地には、市民サービス施設を建設することを予定しています。これは、旧大黒デパートが景観上・保安上の懸念があること、庁舎機能のうち来訪者が多い窓口業務を優先して耐震性のある建物で行うこと、少しでも商店街の近くに立地することで人の流れを変えること、複合施設とすることで新たな人の流れを創出することなど、様々な事情を踏まえ総合的に判断したものです。</p> <p>市立図書館は、黒石公民館駐車場に建設する計画となっています。その周辺には名勝金平成園、百年料亭ネットワークに参画している料亭、徳川家康ゆかりの神社、黒石陣屋跡などの観光資源が点在しており、市立図書館は、回遊に寄与する施設と位置付けています。また、図書館建設予定地に隣接して、教育委員会、黒石公民館、スポーツ交流センターがあり、教育文化施設がまとまって配置されるエリアとなります。</p>
6	人と人が交流できるような図書館づくりをしてもらいたい。	<p>図書館の機能については、これから市民の皆さんの意見を聴きながら、先進事例も参考にしつつ、黒石市にとってふさわしい図書館となるよう検討していきます。</p>
7	津軽こみせ駅を地元の人にも多く利用してもらうために、惣菜などの商品も取り扱ってはどうか。	<p>基本計画（案）に記載している「津軽こみせ駅管理運営事業」では、津軽こみせ駅を、観光情報の提供及び地場産品等の販売を行うなど、交流人口の拡大に向けた観光客のまちなか回遊の起点と位置付けています。今回いただいたご意見は、観光客だけではなく市民の利用を促進するための活用ということですので、今後、津軽こみせ駅を運営していくにあたり、参考とさせていただきます。</p>
8	市外への宣伝として、SNSやテレビCMの媒体や弘南鉄道の駅を活用してはどうか。	<p>基本計画（案）に記載している「街なか情報発信事業」では、商店街マップや情報誌、SNS、観光アプリ等で情報を発信し、市民及び観光客の関心を高める取り組みをしていきます。今後も、情報の内容や発信手段を検討し、効果的なものにしていきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
9	郊外の市民を呼び込むために、市内循環バスの便を増やしてはどうか。 また、ニュータウンなど居住スペースを確保することで、市外からの移住を進めてはどうか。	基本計画（案）に記載している「回遊バス運行事業」では、中心市街地への効率的なバス路線を検討しており、中心市街地への来街者の利便性向上を図っていきます。 基本計画（案）では、子育て支援策の充実や生活環境の改善などにより、街なか居住の推進にも取り組みます。「弘前圏域空き家・空き地バンク連携事業」において、定住希望者等と所有者の橋渡しにより、空き家・空き地の有効活用を促進していきます。

4 ご意見全文（原文のまま記載しています）

意見①
<p>（6）中心市街活性化の方針（p63～）</p> <p>現在全国で展開されている市街地活性化で成功している事例に共通しているのは「儲かる町おこし」である。補助金に頼ることなく、民間を中心とした「町おこし会社」を設立して、身の丈にあった開発と、その地域の特色を生かして産業化を進める方法である。その代表的なものが岩手県紫波町「オガール・プロジェクト」であり、全国の注目を集めている。ここで行われた手法は「パブリックプライベートパートナーシップ」（PPP）と呼ばれるものであり、水道やガス、交通など従来地方自治体が公営で行ってきた事業に、民間事業者が事業の計画段階から参加して、設備は官が保有したまま、設備投資や運営を民間事業者任せにする民間委託などを含む手法である。</p> <p>黒石には、こみせや兼平成園などの歴史的建造物、春の東公園桜祭り、夏の「ねふた」と「よされ」、秋の中野山の紅葉など四季それぞれのイベント、こけしやりんご、地酒に温泉、民謡などの有形無形の文化財、そしてお茶の栽培北限であったことに由来する「お茶の文化」から生まれた、和菓子や和服、陶器などの多くの観光資源がある。しかし、これらを生かし切れていない原因の一つは、観光客を滞留させる、函館の金森倉庫のような施設がないからだと考えられる。今回の中心市街地活性化基本計画（以下『本計画』）の7「中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業、民間中心市街商業活性化事業、その他の経済活力の向上のための事業及び措置に関する事項」〔1〕経済活力の向上の必要性においても「拠点施設の整備」とはのべられているが、ここで求められるのが「まちなかの復活」である。まちなかは、各地域に固有の街並みと文化を育み、内外の多くの人びとを惹きつけ、富を生み出してきた。まちなかがにぎわうことによって地域の経済が潤うのだが、現在日本各地のまちなかが荒廃している。その荒廃したまちなかを、地域独自のライフスタイルを支え・育み・発信する拠点として再生することが必要である。</p> <p>そのために、荒廃した中心都市のまちなかを、ある程度統一したデザインに従って開発し、美しく快適な街並みを回復する、「まちなかの再生」を行うことが必要となる。これはつまり、ゴーストタウン化した横町全体を再生することである。ここで、「ある程度統一したデザイン」として、「こみせ」をモチーフにすることを考えるべきである。これは新たな「こみせ」、つまり「こみせ」の再生＝『こみせ』ルネサンスである。現在のこみせ通りには、これまでどおり、歴史的な意義などを担ってもらおう。そして横町には、多くの観光客に「黒石と言えば『こみせ』だね。」と言えるような新たな街並みを作り、そこに、黒石独自のさまざまな文化、つまり、こけし、りんご、地酒、民謡、茶の湯、和菓子、和服、陶器などの工房やショップ、さらに地元食材を使った料理を提供できるレストラン等をテナントとして迎え、黒石独自のライフスタイルに根ざした産業</p>

をおこすのである。「働き口がないから、若者が流出する」のではなく、「生きがいがあれば、若者は町に残る、戻ってくる」のであり、そのためにその地域独自の文化に根ざした生き方（ライフスタイル）を作り出し、産業をおこし、情報を発信するのである。新たなこみせは幅を広くし、椅子やテーブルを置いて、カフェテラス的なシチュエーションでも使うことを可能とすれば、あちこちで交流が広がることが考えられる。加えて、高齢者や車のない地元の人たちが気軽に立ち寄れるマルシェ（市場）を作れば、観光客と地元の人たちが自然に交流できる環境も作ることが可能となる。

この場合、紫波町の「オガール・プロジェクト」を参考にして、身の丈に合った、きちんと利益を出せるテナントを入れることが重要になる。補助金だけでいきなり大きな箱を作って、そこにテナントを押し込んでも、結局経営がなりたたず、元の木阿弥になってしまう。青森市のアウガがその代表例であり、きちんと利益を出せるテナントを選び、その規模に合わせて施設を作る、それも一気にすべて作らずに段階的に作りながらきちんと収益を出していけば、他の優良テナントからの出店希望も増えていく。ただ、宿泊施設に関しては、これから広がっていくであろう民泊を活用し、限られたリソースは他に有効活用すべきであると考えらる。

そして、本計画において旧大黒デパートを解体し、ここに市役所機能を有する複合施設を整備し、とあるが、ここにこそ黒石市立図書館を作るべきである。図書館には「人と本」だけでなく「人と人とをつなぐ」機能があり、現代の公共図書館はどこも人と人とを結ぶ交流活動を熱心に行っている。事実紫波町オガール・プロジェクトの中心的な建物である「オガール・プラザ」には町立図書館が大きなスペースを占めており、ここには、飲食スペースが併設され、絵本にでてくる料理やお菓子を実際に作ったり、普段は見ることのできない夜の図書館を公開するなど非常にユニークな図書館として全国的にも有名で、毎日たくさんの人びとが集っている。これは黒石でも可能なことであり、いろいろな世代の人びとが「『こみせ』ルネサンス」に集うことができるのである。

本計画では、現在の黒石公民館駐車場に市立図書館を建設するとあるが、これは絶対に行うべきではない。現在青森県の10市の中で、市立図書館が存在しないのは黒石市だけである。最後発の市立図書館であるならば、それこそつがる市立図書館を超える最高のものを作らなければ意味がない。ここで中途半端なものを作っては、末代までの恥となる。そのために必要なのは、しっかりとした図書館についての理念であり、優秀な館長及びスタッフ、幅広いネットワーク、これらによって作り出される「図書館システム」なのであり、半端な新築の建物ではない。（公共図書館の基本的理念については、公共図書館のバイブルともいえるべき、日本図書館協会の「中小図書館における公共図書館の運営」（1963年）、および「市民の図書館」（1970年）という2冊を参照のこと。これが理解できないと、きちんとした図書館は成立しない）。せっかくのチャンスなのだから、今こそまちなかの再開発と市立図書館建設を組み合わせるべきであるが、現状を考えると、市立図書館はできるだけ早く形にしたい。そこで有効な手段となりうるのが、市内各所のできる小中学校の空き校舎である。例えば、六郷中学校ならびに統合で空き校舎となる浅瀬石小学校、北陽小学校に順次市立図書館の分館を作り、移動図書館と組み合わせ、黒石市全体に図書館サービスを供給する。市立図書館はすべての市民にサービスするものであるから、全市にサービス網を広げなければならず、そのためには地域に結び付いた「分館」こそが公共図書館の本来の姿である、ということも、全国的に周知の事実である。特に黒石のように町村合併で誕生し、中心となる市街地が狭い市では、中央に大きな図書館を一つ建てるのではなく、地域に結び付いた分館によるネットワークが有効であることは明らかである。さらに空き校舎は、普通教室だけでなく、音楽室や調理室などの特別教室や体育館、和室などさまざまな設備を持っている。現代の公共図書館では「人と人とを結びつける」さまざまなイベントが行われている、と書いたが、小中学校は、それらをもその場で実施できる複合施設として、非常に有用なのである。既存の空き校舎を既存の建物を再利用するので、改修費はかかるが、図書館を新築するほどの費用はかからない。その間に横町の再開発を行い、「『こみせ』ルネサンス」の中に前述のように黒石市立図書館中央館を建設する。現在の黒石小学校・中郷小学校の校舎

は、耐震基準を満たしていないため、空き校舎となっても使えないが、市の中心部の人たちは市立図書館中央館を利用する、というのは距離的に問題ないはずである。

また、図書館だけでなく、高齢者のためのヘルスケアセンターを設置するのも一つのアイデアである。病気ではないが体の弱ってきた高齢者たち（要介護予備群）が適切な指導や処置を受けることで健康を維持・管理するとともに、食事・娯楽・文化を求めて集い、人々を結びつけることができる。

多くの観光客や地元の人たちが自然に集い、交流する「『こみせ』ルネサンス」。そして、その中心には時代の最先端をいく、日本で最高（と言われたい）の「黒石市立図書館」があってほしい。

そしてこの「『こみせ』ルネサンス」に、高齢者や障害を持った人、子どもたちなどが歩いてこられるよう多くの異年齢の人びとが居住する居住施設を作っていけば、「『こみせ』ルネサンス」だけではなく、そこを取り囲む市街地も発展することになる。

繰り返しになるが、黒石の町おこしのためには、PPPという手法が最適であると考えられる。「儲かる町おこし」のために何をすべきなのか、紫波町の手法を学び、たくさんの観光客が四季をとわず訪れて地域住民と交流し、に子どもの声があふれ、高齢者から赤ちゃんまでが触れ合いながら暮らしていける、活気あふれる黒石を作り出してほしい。

意見②

私は普段から中心市街地を利用する人が少ないという現状を改善するために、65ページの基本方針2はとても大事になってくると思います。そこで1つ提案があります。現在、こみせ駅では観光客向けのお土産となるものを中心に売っていますが、地元の方にもより多く利用してもらうために、こみせ駅で市内のお母さんたちが作ったお総菜や弁当、漬け物などの商品も売って、市民の交流の幅を広げ、さらに深めて行けたら良いと思いました。また、67ページのまちづくりの計画を実現できた場合、黒石市はにぎわいを取り戻し、多くの経済効果も生まれると思うからとても期待しています。

しかし、そのためには、市外の方への十分な宣伝が必要だと思います。その手段として、SNSを活用するほか、テレビのコマーシャルや弘南鉄道の駅にチラシを貼るといった方法が良いと思いました。さらに、郊外の市民も呼び込むために市内循環バスの便を増やすべきだと思いました。また、ニュータウンを建築し居住スペースを確保することで、市外からの移住者も迎え入れることができると思います。

最後に、私は黒石市民として市街地の活性化を期待しています。これからの黒石市がより明るく、住みやすい街となるようどうかよろしくお願いします。

意見③

基本計画（案）街なかのにぎわい創出の【主なハード事業】に市立図書館整備事業があります。50年程前からの要望により、関係市民の悲願ともいうべき図書館によろやく着手するという嬉しきことす。しかしながら基本計画の【素案】のなかには図書館に関するデータや説明資料が何も掲載されておらず、現状の図書コーナーの利用人数、貸出数など詳細はわかりませんが私案を述べさせていただきます。

整備された場合30年、50年と続くであろうその立地に関する私見です。

【主なハード事業】のもう一案に旧大黒を解体し跡地に市役所窓口業務を含む市民サービス関連の複合施設を整備するとありますが複合施設の内容がわかりません。具体化していれば判断することも可能なのですが、具体化していないのであれば、私はこの窓口業務と図書館を大黒跡地への整備を推奨するものです。一体化した建物でも別棟でも構いませんが公民館駐車場予定地よりは遥かに中心市街地活性化に効果があると考えます。

県内十市のなかで図書館の無いのは当市だけです。平成28年に設置したつがる市は建設コストをかけず、イオンモール柏に開館しました。人口では当市より少ないつがる市ですがショッピングセンターとの相乗効果が相当大きいとは思いますが、開館2ヶ月で10万人7ヶ月で20万人の来館数があったということです。この数字をだいぶ少なくみ

ても、市ノ町、横町への波及効果は相当なものがあるはずで

す。素案P26に交通量調査の資料があります。H29年市ノ町は平日358人、休日204人、横町は平日240人、休日176人とあります。

P81に事業効果割合の設定とあり、市ノ町に関しては図書館整備で+10%で36人、市民サービス施設整備+10%で36人(平日分)とありますが、この設定もわからない点がありますが、図書館を大黒跡地に整備することにより、私は30%~50%以上の効果は期待できると考えます。

また、P45に年代別中心市街地に必要なものアンケート結果によると各年代で魅力的な店舗が1位です。P54の希望する施設は大型の商業施設とともに飲食店やカフェが上位にあります。

つがる市では図書館のエントランスに全国チェーンのタリーズコーヒーが入店しています。

大黒があり、ソフニ書店があった頃は小・中・高生などが多数見られ、それだけでも活気があったように思います。そういう十代、二十代の若者たちには全国チェーンのコーヒーやバーガーショップ、ファーストフードなどが併設できれば大変夢もあり楽しい場所になるのではないのでしょうか。

何よりも集客性がある場所にはコバンザメ商法といい自ずと出店が増えます。P74新規出店者目標値、年3件×5年で15件とありますが、完成後にはこの数値以上の効果があると思われ、空店舗対策にも非常に有効な手段になると思います。

私よりも行政マンである皆様の方が専門的な情報を集めていると思いますが、本年、大間町では庁舎を建設しています。しかし、その建設には一年1億円といったリース方式を採用しています。15年で無償譲渡されるということです。多額の初期投資の建設コストを抑え財政負担を平準化できるメリットがある方法ということです。大黒跡地の市民サービス関連施設や図書館等、一考の価値はあると思います。

担当	黒石市商工観光部商工課
電話	0172-52-2111 (内線 641)
F A X	0172-53-1839
Eメール	kuro-souhan@city.kuroishi.aomori.jp